



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第  
4号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第4巻第4号). 泌尿器科紀要 1958, 4(4): 252-252

ISSUE DATE:

1958-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111587>

RIGHT:

## 編集後記

第46回日本泌尿器科学会は熊本大学榎原教授の会長の下に未曾有の盛会裡に終了した。学会運営のために会長は多くの創意と新機軸とを示されたが、その準備のために払われた努力は計り知れぬものがある。極めて膨大、複雑な仕事を、綿密、有意義に遂行せられたことに対して万腔の敬意を表す。



一般演説を制限して特別演説に重点を置く方針はよかつたと思う。演説の内容が聴く者の頭にまとまっていはいない。緊張の連続で、息をつくひまもない程だ。そのために第1日が終わった時には、3日間も聴いたような気になった。それ程内容が充実していた。今後の学会は段々にこの方向に行くであろう。この上に座談会或は自由討議の形式も将来は考えられてよいであろう。



どの演説も立派であつた。その努力と成果に対して頭が下がると同時に学問のきびしさが身にしみた。学会の意義もここにある。



泌尿器科の領域も広くなつた。基礎医学は勿論のこと、外科、麻酔学、婦人科、小児科等との関連は益々深くなつてゆく。今後どこまでも延びてゆくであろう。ふと頭の中をかすめるのは健康保険などの現実問題である。医学と健保との関係に於て、わが国の臨床医学、国民医療はどうなつてゆくのであろうか。



泌尿器科独立の問題は1、2年前までは熱心に論ぜられたが、今年は評議員会でも全く発言せられなかつた。学会の様子、その他汎ゆる点から見て独立の必要性は益々増大しているのに、現実逆の様相を示している。これはどうしたことであろうか。泌尿器科学会はこれを放任せず、力強く対処せねばならぬ。



熊本は活気に満ちた大都会として復興している。人情は極めて厚い。学会の会場は立派で便利で、申し分がなかつた。熊本城のあたりはもう青葉の景色であろう。

### 購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は総説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。  
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込みこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部